

# 知教労と半田市教育委員会との話し合い結果

半田市教育長 鈴木 慶光 教育部長 岩橋 平武 学校教育課長 沼田 昌明 主任指導主事 波田 聡  
知教労委員長 佐田 京美 副委員長 岩澤 弘之 岡田 康

## 1 労働安全衛生法にもとづき、教育委員会として適正なマネジメントを進めてください。

(知教労) 教職員の、働きすぎ解消のために市教委としての具体的な対応は。

(教委) 次年度中に、月80時間以上の超過勤務を小学校5%、中学校20%以下にすることが目標だ。

(教委) 昨年6月に市内の教職員対象に勤務実態の調査をした。一番の手立ては、学校運営支援協議会の導入だ。環境面や安全面などでの手助けとなっている。コミュニティ制度への移行も視野に入れている。

(知教労) 情報公開で4月の出退勤簿を調べたが、昨年度よりは80時間・100時間超の割合は減っている。しかし、まだ200時間に迫る超過勤務をしている職員もいる。

(教委) 対応の一つとして、部活動のガイドラインを設けた。市内の中学校で、7月の朝部活を行わない学校も出てきている。在校時間の調査では、昨年度から一つ進んで、休憩時間が取れたかどうかを自主申告できるようなシートを市内の統一した書式にした。

(知教労) 休憩時間が取れなかったら引くというシステムが十分説明されず、実際には引かれた記録がほとんどなかった。

(教委) マニュアルには書かれている。しかし、浸透していないなら更に周知したい。

(知教労) 管理職が早く帰った方が、職員が帰りやすいと、前教育長が言っていた。しかし、管理職には本来労働時間を管理する仕事があるはずだ。何時までも在勤している職員に帰宅を促すことも必要だ。

(教委) 校長会でも話題にしたい。先生方の健康を損なうことのないように取り組んでいる。

(知教労) 各学校に労働安全衛生委員会を設置するとともに、労安意識を高める努力が必要だ。

(教委) 50人以上の職場では、委員会をもち、それ以下のところでは、市の委員会に参加してもらっている。

(知教労) 再任用者や講師、ALTなどまで含めると、今の学校よりもかなり多くなるはずだ。

(知教労) 市内のある小学校では、4月の80時間以上の勤務者が「0」となっていた。本当なら素晴らしいことだが、あり得るのか。財務省の公文書書き換え問題などを受けて、公文書の書き換えは懲戒処分の対象となる。もし、事実と違うならば、個人が勝手にやったでは済まされないことだ。

(教委) 在校時間の記録は正直でないとい何の解決にもならない。正直に申告するように指導していく。「0」はあり得ないと思っている。

(教委) 例えば市役所では、月30時間以上(の勤務超過)で課長が、50時間以上なら部長が呼び出されるシステムになっている。

(知教労) 法令に準じた働き方ができるように考えていってほしい。

(知教労) 勤務時間外の留守電対応についてはどのような対応を考えているのか。また、夏休みの閉校についてはどうか。他の市町、特に東浦町では導入が進んでいる。

(教委) 東浦町のことは、主事会でも聞いている。出退勤の記録についてもある市町ではパソコンの電源起動で(客観的な記録が)記録ができないかと模索している。その他の市町の情報も情報交換をしている。半田市も対応は議論している。

(知教労) 泊を伴う行事の割振りについて、例えば、中学校の修学旅行を例にとってみても、同じ2泊3日の行事でありながら、学校によって勤務の割振りに差がある。まだ、依然として新幹線内やテーマパーク内で2時間の休憩を計上している学校もある。

(教委) 校長会で確認する。

(知教労) これも法令からの視点で考えていく必要がある。

## 2 学校行事や事務などが職員の負担にならず、教員の自主的な研修が保障できるようにしてください。

(知教労) 学校訪問が管理的なものではなく、本来の要請訪問のかたちにならざるを得ないようにしてほしい。

(教委) 現場の負担を減らしたいと考えている。学校訪問要項にインデクスを貼ることの廃止など、事務の簡素化もしている。

(知教労) 学校訪問以外のところでも、事務の簡素化を進めていってほしい。

(知教労) 中2で実施している職場体験学習を廃止してほしい。

- (教委) 意義のあるもので、半田市はキャリア教育を推進している。取りやめる予定はない。
- (知教労) 夏季休業前に生徒にアポイントを取らせたり、終わった後も礼状の指導をしたりして教員の仕事は大変だ。その割に、サービス業的な職種の体験ばかりで製造業などはなかなか受け入れてくれない。
- (教委) 地域の事業所やPTAの方々にも協力をしてもらっている。
- (知教労) いくら意義のあることでも、物事には始まりも終わりもある。多忙化解消を考えるなら、職場体験学習などの行事も視野に考えないといけない。
- (知教労) 国語（書写や作文・感想文）や美術の作品応募に制限をつけるようにしてほしい。
- (教委) 作品募集に対しては、市教委を通すようにさせている。
- (知教労) 以前から学校で選定してもらえばよいということを伺っているが、夏季休業中以外でもいろいろな募集が来ることがある。断れる担当者はいいが、まじめに取り組むと大変だ。
- (教委) 作品募集については調整し、学校の負担を減らしていく。
- (知教労) 地域の行事については、地域で募集し、地域で行うべきだ。学校で募集することは、学校として関係することになる。
- (教委) コミュニティ・スクールに向けて地域と協力することは大切であるが、学校の多忙化につながらないようにする必要がある。

### 3 部活動の適切な運営について

- (知教労) 部活動は教員の大きな負担となっている。教員全員に部活動顧問をさせるのではなく、顧問を引き受けるかどうかは希望制にすべきだ。
- (教委) 皆さんに指導してもらっているが、個々の事情に応じて、複数で顧問をもつなど配慮している。
- (知教労) 実際には部活動を指導していない先生もいる。名ばかり顧問を作るほうが問題だ。
- (知教労) そもそも部活動の時間帯は勤務時間に入らない部分が多い。時間外労働が分かっているのに顧問に任命するのは法令上どうなのか。
- (教委) 勤務時間内の活動なら問題はないのではないかと。

### 4 ゆきとどいた教育を実現するため、教育諸条件の充実を求めていってください。

- (知教労) 生活支援員の増員をお願いします。給食費などの集金事務に充てる支援員の新設をしてください。
- (教委) 半田市は、(人的支援を)特に重視して進めている。今年も学校生活支援員は小学校で39名、中学校で15名配置し、特別支援学級補助員は小学校に10名配置している。また、スクールソーシャルワーカーは、2名で週4日に拡大した。
- (知教労) 毎年、半田市の人的支援については感謝している。
- (知教労) 知教労はずっと以前から教室への空調を訴え、32年度以降の導入の検討が予定されていたが、今年夏の豊田の事件を受けて全国的に空調化の動きが高まった。半田市も新聞紙上でいち早く空調の導入を発表したがそのあたりはどうなのか。
- (教委) 半田市が一番に発表した。来年の夏までにはすべての普通教室に設置できるように進めている。
- (知教労) その際、音楽室や美術室などの特別教室への導入もぜひ考えてほしい。
- (教委) 先ずは子どもが普段過ごす普通教室を最優先にする。特別教室はその後、順次計画を立てて進めていく。それに、体育館への設置も考えないといけないと思っている。
- (知教労) 校舎の老朽化に伴う建て替えの問題はどうなるのか。
- (教委) 古い校舎から建て替えようと前向きに考えている。適当な時期に(建て替え計画を)発表したい。この点でも市長の後押しがあり、教育委員会としても積極的に考えている。
- (知教労) 校舎の建て替えがあってもエアコンは予定通り来年度つけるのか。
- (教委) それがあっても来年度設置する計画だ。建て替えた後のエアコンの再利用も考えている。
- (知教労) シャワートイレの設置も視野に生徒のトイレの洋式化を進めていくこと。
- (知教労) 教職員の男女別休養室や温水シャワー設置、シャワートイレの設置などを進めてほしい。
- (教委) 順次進めようと考えている。

以上、市教委の皆様の対応に感謝いたします。(知教労参加者一同)